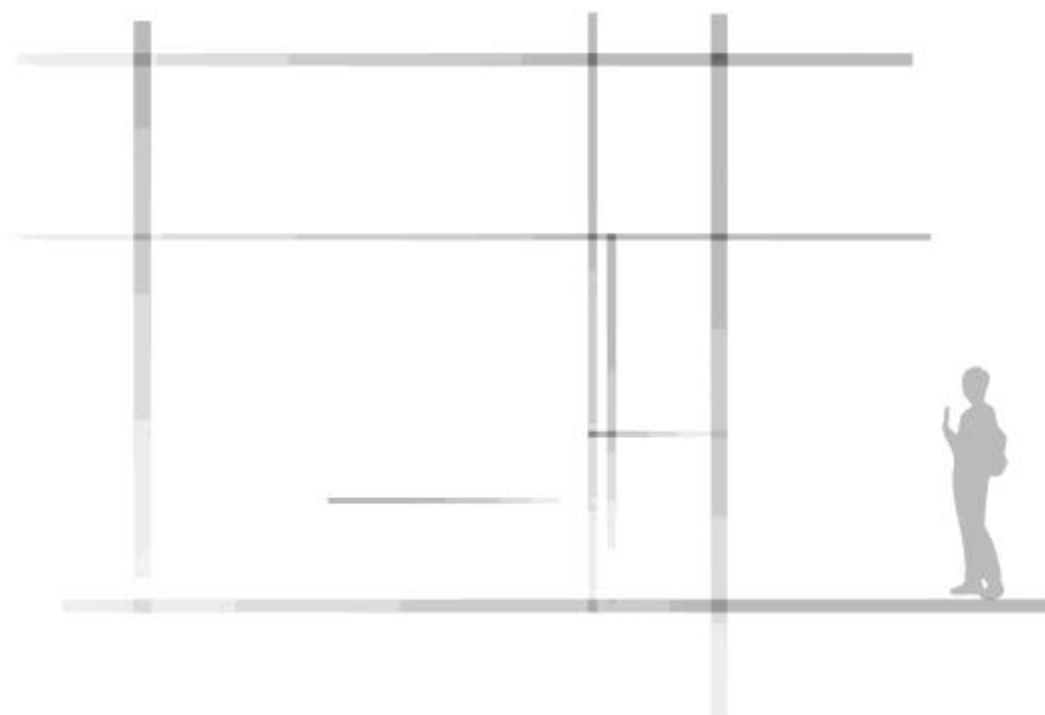


「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」

第6回協議会

～各WGの協議状況及び平成20年度の施策～



平成21年3月25日
歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会

目次

1 各WGの協議状況

- 1.1 WG立ち上げの経緯
- 1.2 各WGの主な目的
- 1.3 協議状況

1 平成20年度の施策

- 2.1 自動車流入抑制に関する施策
- 2.2 自転車対策に関する施策
- 2.3 歩いて楽しい賑わいの創出に関する施策

3 まちなかの交通に関する実態調査

- 3.1 四条通における交通実態調査
- 3.2 放置自転車台数及び自転車走行台数実態調査
- 3.3 自転車利用者に対するアンケート調査
- 3.4 「^{まち}京なか^{ぶっく}歩く」などのまちの賑わいに関するアンケート調査
- 3.5 まちなか来訪者実態アンケート調査

1 各WGの協議状況

1.1 WG立ち上げの経緯

第7回幹事会(平成20年3月18日開催)において,様々な施策の実現に向けて,個々の課題を詳細に検討することを目的に,ワーキンググループ(WG)を組織することが了承され,現在4つのWGが積極的な検討を進めている。

1.2 各WGの主な目的

四条WG	三条細街路WG	河原町WG	物流WG
四条通の歩道拡幅をはじめ,四条通のあり方を検討	自転車対策,「人が主役のまちなか道路」など,三条通や細街路のあり方を検討	河原町三条交差点の改良,京都の「お入り口」三条通など河原町三条を起点とした地域のあり方を検討	歴史的都心地区における荷捌きのあり方を検討

1 各WGの協議状況

1.3 協議状況

(1) 四条通WG

**四条通の歩道拡幅を中心とした今後の四条通のあり方について検討を行っている。
今後、歩道拡幅実現に向けた課題の解決策について、詳細な検討を進める。**

【四条通WGの構成メンバー】

京都大学大学院経済学研究科 岡田教授, 京都商店連盟中京東支部, 四条繁栄会, 高島屋, 大丸, 京都府旅館生活衛生同業組合, 京都信用金庫, 駐車場問題対策協議会, トラック協会, 京都乗用自動車協会, 京都府警, 京都市 (歩くまち京都推進室, 建設局)

【開催状況と主な協議内容】

- 第1回 (平成20年 4月30日): 四条通の交通のあり方と問題点について協議
- 第2回 (平成20年 6月13日): 平成20年度方策展開(案)について協議
- 第3回 (平成20年 11月12日): 平成20年度方策展開(案)について協議
- 第4回 (平成21年 3月10日): 四条通歩道拡幅について協議,
平成20年度施策について報告

1 各WGの協議状況

四条通歩道拡幅について

四条通道路空間再配分に関する基本コンセプト

人が主役の道づくり・まちづくり

人が集い、楽しむための空間を創出し、歴史都市京都、環境都市京都のシンボルとして、風格と華やぎのある道路とする。

不要不急の自動車利用を抑制し、歩行者と公共交通優先のみち・まちをつくる。

日本三大祭の一つ「祇園祭」が催されることをコンセプトの中心に据え、世界に誇る道路を目指す。

具体的には、広幅員歩道 + 2車線道路を基本構成として、望ましい道路空間配分・共有方法を検討する。

1 各WGの協議状況

四条通歩道拡幅

歩道拡幅案（歩道を最大確保）

住民の安全、都市の継続的发展を支える道路機能を備えるため、緊急車両の通行、等を考慮した道路構造、荷さばき交通との共存」について検討
限りある道路空間を共有するため、バス停構造」等について検討
祇園祭は四条通のイメージの中心であるため、祭礼時への配慮もあわせて、フラットな空間創出のための工夫を施す
“人が主役の道づくり・まちづくり”の基本コンセプトの下、緊急車両の通行、停車車両への対応を考慮した中で、

可能な限り最大幅の歩道を確保」する。

将来像



広幅員の歩道空間を安心安全で快適に歩く住民、来街者、観光客
ゆっくりと人に遠慮しながら走る自動車

1 各WGの協議状況

歩道拡幅に関する課題

歩道拡幅の実現に向けた検討課題

- ・緊急車両の通行確保
- ・荷さばき交通との共存
- ・バス停構造
- ・タクシーベいのあり方
- ・祭礼時への配慮 (フラットな空間) と歩行者の安全性確保
- ・自転車問題
- ・交通量抑制

など

交通実態調査

四条通交通実態調査

- ・交差点交通処理調査
- ・旅行速度調査

物流実態調査

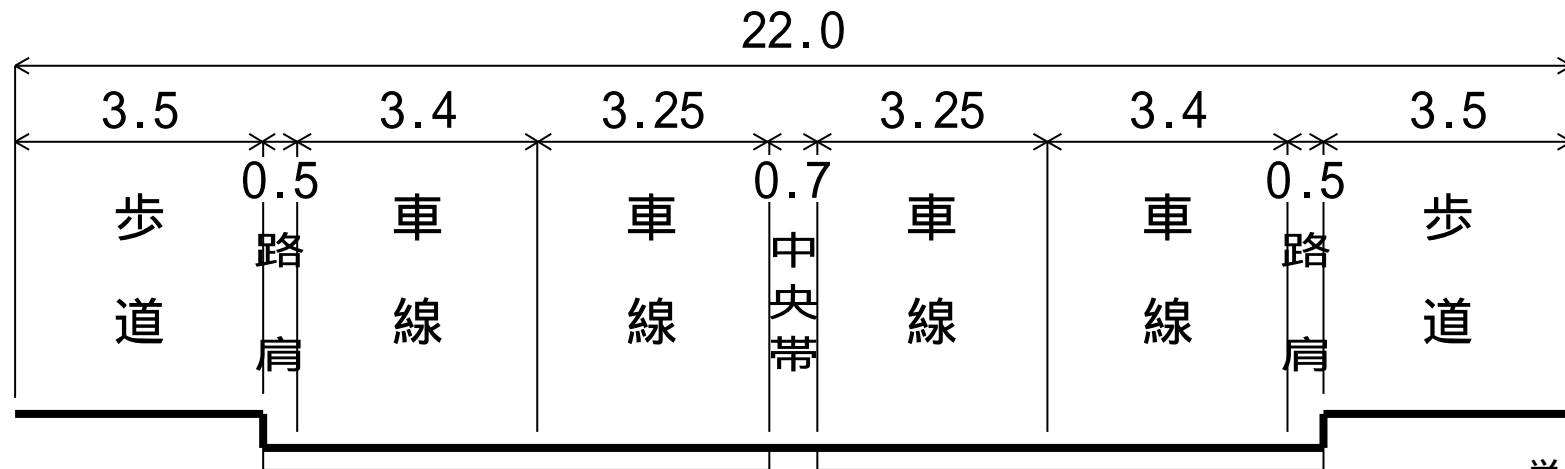
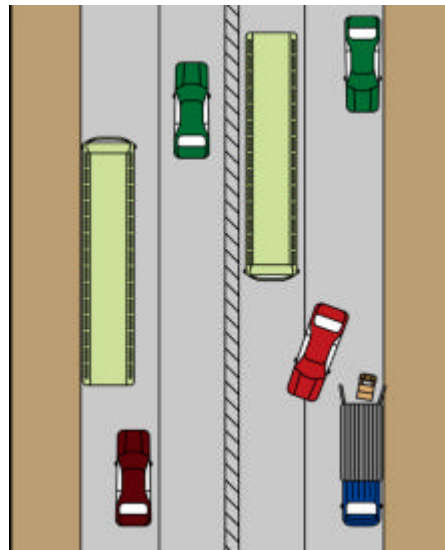
- ・路上荷さばき定点観測調査
- ・GPSによる車両観測調査

今後の検討内容

- 四条通の交通状況に関する詳細な検討を行う
- 四条通の歩道拡幅に向けた課題の解決策を検討する

1 各WGの協議状況

四条通の現状 (横断構成)



単位 :m

1 各WGの協議状況

(2) 三条細街路WG

小規模分散型のまちかど駐輪場の設置などの放置自転車対策や、「人が主役のまちなか道路」に関する検討を行っている。

今後は、「人が主役のまちなか道路」の仕組みづくりについて検討を行う

【三条細街路WGの構成メンバー】

歩いて暮らせるまちづくり推進会議、京のアジェンダ21フォーラム、京の三条まちづくり協議会、京都府建築士会、楽洛まちぶら会、京都市（歩くまち京都推進室、都市づくり推進課、中京・下京区役所）

【開催状況と主な協議内容】

- 第1回（平成20年 5月22日）：まちかど駐輪場や自転車マナー向上について協議
- 第2回（平成20年 6月17日）：まちかど駐輪場や放置自転車対策について協議
- 第3回（平成20年 6月30日）：まちかど駐輪場について協議
- 第4回（平成20年10月14日）：まちかど駐輪場や自転車利用者啓発について協議
- 第5回（平成20年11月18日）：平成20年度方策展開（案）について協議
- 第6回（平成21年 2月19日）：自転車対策に関する取組状況の報告，
「人が主役のまちなか道路」について協議

1 各WGの協議状況

自転車対策に関する施策

自転車対策

- ・まちかど駐輪場の設置
 新京極公園
 御池通 (南側歩道上 3箇所)
- ・駐輪場 走行規制マップの配布

自転車利用実態調査

- ・放置自転車台数, 走行禁止区域走行台数調査
- ・自転車利用者のアンケート調査

「人が主役のまちなか道路」に関する検討

「人が主役のまちなか道路」の検討

- ・地元, 行政, 民間団体等が連携した仕組みづくり
- ・細街路の通過交通の抑制, 景観形成など地域の特色に応じたまちなか道路の実現

今後の検討内容

モデル地区での試行など, 「人が主役のまちなか道路」の仕組みづくりについて検討を行う

1 各WGの協議状況

「人が主役のまちなか道路」について

取組の目的

歩行者と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現には、細街路等を生活道路として利用する地域住民や事業者が自らの「家の前の道」のあり方を議論し、地域で合意形成を図ることにより、これを道路管理者、交通管理者と協力しながら、通過交通の道路ではない、「人が主役のまちなか道路」として実現していく仕組みづくりが必要です。

歴史的都心地区及び隣接する周辺部において、モデル地区を選定し、実施検証を行い、課題の抽出とその解消策を検討し、仕組みの具体化を図ります。

「家の前の道」とは、「我が家の前にある道の一部分」だけでなく、ひとつの道(通り)として、地域全体への広がりも視野に入れたものです。

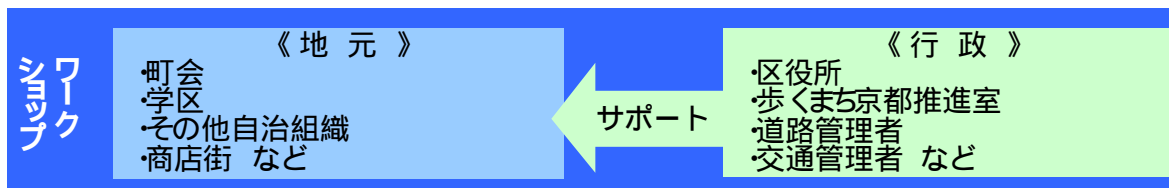
1 各WGの協議状況

検討の進め方

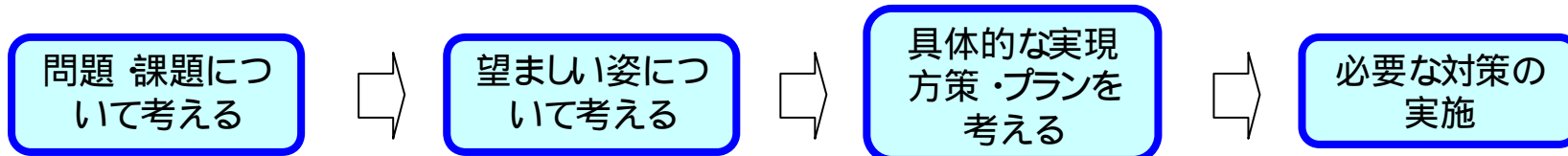
「家の前の道」でどんな問題・課題があるかを検討し、地域で共通認識を持ちます。例えば、通過交通が多くて危険、放置自転車で路肩が埋まっている、自転車の走行マナーが悪い、電線・電柱で景観が損なわれている、夜に人通りがなく暗くて危険、最近まちの賑わいが少ないなど、道に関わる様々な問題・課題を検討します。

また、通学路や小学校周辺が危険、交差点が問題、朝夕が問題、お年寄りが危ないなど、地区の特徴を踏まえた検討を行います。

地元と行政等が連携し、モデル地区毎にワークショップを立ち上げ、そこで検討します。ワークショップの具体的な構成や進め方は、地域の実情に応じて検討します。ワークショップの主役はあくまで地元ですが、区役所や歩くまち京都推進室は、行政制度や専門的内容についてサポートします。また、専門家の協力を得ることもできます。



検討のステップ



1 各WGの協議状況

(3) 河原町通WG

河原町三条交差点の改良や、河原町通のあり方について検討を行っている。

今後は、河原町三条交差点のスクランブル化を具体化するとともに、そこを起点とした河原町通や三条通の今後のあり方、特に、京都の「お入り口」三条通における整備のあり方やまちづくりの方向性について検討を行う

京都の「お入り口」
東海道五十三次の終点として数百年来、京の入口としての役割を果たしてきた場所

【河原町通WGの構成メンバー】

京都商店連盟中京東支部、商店街（河原町、三条小橋、パレット河原町、三条名店街、河原町蛸薬師）、京都市（歩くまち京都推進室）

【開催状況と主な協議内容】

- 第1回（平成20年 3月 31日）：河原町通の今後のあり方について協議
- 第2回（平成20年 6月 16日）：河原町三条交差点の歩車分離信号について協議
- 第3回（平成20年 11月 4日）：河原町三条交差点の歩車分離信号について協議
- 第4回（平成21年 3月 5日）：河原町三条交差点の歩車分離信号、
京都の「お入り口」三条通について協議

1 各WGの協議状況

河原町通，三条通のあり方の検討

河原町三条交差点の改良に関する検討

- ・賑わいの創出
- ・放置自転車やタクシー車列の解消
- ・道路混雑の抑制 など

河原町通や三条通における歩いて楽しいまちの実現に関する検討

- ・三条通を京都の「お入り口」と位置づけてのまちづくり

今後の検討内容

- 河原町三条交差点のスクランブル化について具体的検討を行う
- 京都の「お入り口」として位置づけられる三条通の整備のあり方について検討を行う
- 河原町三条交差点を起点とした，河原町通の賑わいづくりについて検討を行う

1 各WGの協議状況

(4) 物流WG

昨年度の社会実験で把握できた課題(歩道拡幅時の荷さばき空間の確保等)を踏まえ、今後の歴史的都心地区全体における荷さばきのあり方について検討を行っている。

今後は、11月中旬に実施した四条通の交通実態調査(荷さばき実態調査等)を分析し、荷さばきのあり方について検討を行う。

【物流WGの構成メンバー】

京都大学大学院工学研究科 山田准教授, 京都府トラック協会, ヤマト運輸, 佐川急便, 日本通運, 西濃運輸, 福山通運, 商店街(三条名店街, 寺町専門店会, 新京極商店街, 寺町京極商店街, 河原町蛸薬師, 京都錦市場, 四条繁栄会), 京都府警, 京都市(歩くまち京都推進室)

【開催状況と主な協議内容】

第1回(平成20年 8月25日):歴史的都心地区における荷さばきのあり方について協議

1 各WGの協議状況

荷さばきのあり方などの検討

荷さばきのあり方の検討

- ・ルール化 (時間帯等)
- ・荷さばき場所の確保
- ・物流事業者と荷主との連携

物流実態調査

- ・路上荷さばき定点観測調査
- ・GPSによる車両観測調査

今後の検討内容

歴史的都心地区における荷さばきのあり方について具体的な検討を行う

2 平成20年度の施策

第8回幹事会(平成20年11月25日開催)において、平成20年度については、各WGでの検討結果を踏まえ、一定の効果が見込まれる本格的に実施すべき施策を抽出し、可能なものは、年度末までの期間にわたり実施していくことについて了承を得た。

これを踏まえ、歩いて楽しいまちの実現に向けて、

「自動車流入抑制」、**自転車対策**、**歩いて楽しい賑わいの創出**」

に関する具体的な施策を実施しているところである。

今後、この結果を踏まえ、施策ごとの展開を図る。

2 平成20年度の施策

自動車流入抑制に関する施策

【現状の課題】

歴史的都心地区内の通過交通による、歩行者の安全性低下、環境の悪化
限られた道路空間の中での、生活交通と通過交通の住み分けが必要
歩道拡幅による交通容量の低下が懸念



【施策】

道路案内標識の変更による通過交通の迂回誘導
「人が主役のまちなか道路」の取組

自転車対策に関する施策

【現状の課題】

路上放置自転車により、歴史的都心地区の魅力の低下
限られた空間の中での、まちと自転車との共存が不可欠



【施策】

駐輪場の設置
新京極公園
御池通(南側歩道上 3箇所)
マナー向上に向けた取組
駐輪場・走行規制マップの作成・配布

歩いて楽しい賑わいの創出に関する施策

【現状の課題】

歴史的都心地区内へのアクセス方法やまちの魅力に関する情報が不足
歩いて楽しい魅力ある空間の創出が必要



【施策】

賑わいの創出と公共交通の利用促進を目的とした、情報誌「^{まち}京な^が歩^ぐ」の発行

2 平成20年度の施策

2.1 自動車流入抑制に関する施策

(1) 道路案内標識の変更による通過交通の迂回誘導

施策の内容

- 慢性的に自動車で混雑する四条通における通過交通抑制を実施した。
- 道路案内標識を利用した迂回誘導策 (市北西部からの祇園方面へのアクセス経路を丸太町通や御池通に分散)を実施した。



2 平成20年度の施策

実施期間・箇所

平成21年3月8日(日)～ 来年度も継続実施

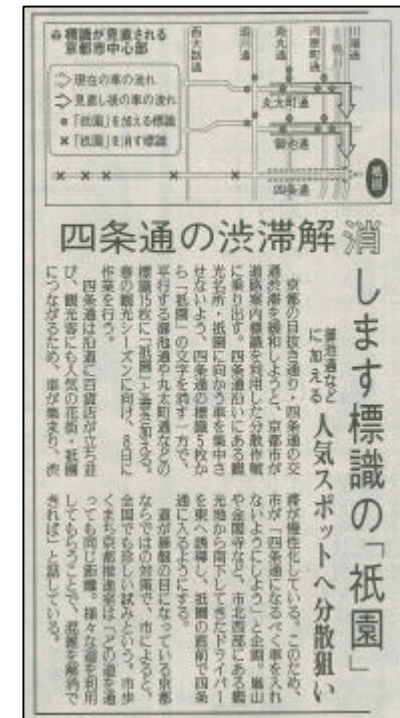


四条通における道路案内標識から「祇園」方面の標記をなくす交差点(5箇所)
 梅津段町交差点, 天神川四条交差点, 葛野大路四条交差点, 西大路四条交差点, 四条大宮交差点

道路案内標識に「祇園」方面を加える交差点(8箇所)
 堀川丸太町交差点, 烏丸丸太町交差点, 河原町丸太町交差点, 川端丸太町交差点,
 堀川押小路交差点, 烏丸御池交差点, 河原町御池交差点, 川端御池交差点

今後の展開

平成21年度以降も継続実施する。



道路案内標識に関する報道
 (H21.3.7読売新聞)

2 平成20年度の施策

(2) 人が主役のまちなか道路

施策の内容

- 歩行者と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現には、以下の仕組みづくりが必要である。
 - 細街路等を生活道路として利用する地域住民や事業者が自らの「家の前の道」のあり方を議論し、地域で合意形成を図る
 - これを道路管理者、交通管理者と協力しながら、通過交通の道路ではない、「人が主役のまちなか道路」として実現していく
- 歴史的都心地区及び隣接する周辺部において、モデル地区を選定し、実施検証を行い、課題の抽出とその解消策を検討し、仕組みの具体化を図る。

実施状況

中京・下京の両区役所と連携して、三条細街路WGにおいて、モデル地区の選定を行っている。

今後の展開

引き続き、三条細街路WGにおいて、仕組みの具体化に向けた検討を行う。

2 平成20年度の施策

2.2 自転車対策に関する施策

(1) まちかど駐輪場の設置

施策の内容

○駐輪需要の高い歴史的都心地区において、自転車利用者のニーズに合った受け皿の確保に向け、実験的に駐輪場を設置した。

実施期間・箇所

新京極公園

平成20年12月22日(月)～ 3月8日(日)

御池通(南側歩道上3箇所)への駐輪場設置

平成20年12月26日(金)～ 3月31日(火)



まちかど駐輪場
Ⓛ新京極, Ⓧ御池通)

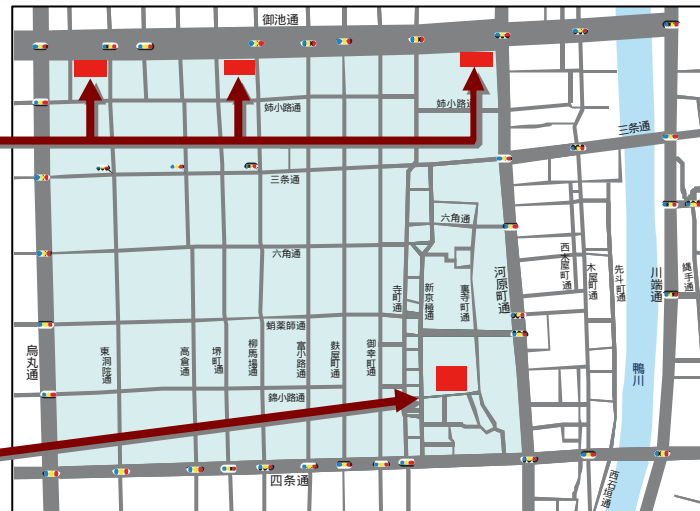
2 平成20年度の施策

御池通（歩道上 3カ所）

- ・場 所：御池通南側歩道上
- ・実験期間：12月26日(金)午前8時
～3月31日(火)
- ・駐輪台数：83台
- ・料 金：駐輪後1時間まで無料
その後2時間まで100円
以降1時間毎に50円加算

新京極公園

- ・場 所：新京極公園内
- ・実験期間：12月22日(月)午前8時
～3月8日(日)
- ・駐輪台数：88台
- ・料 金：駐輪後1時間まで無料
その後2時間まで100円
以降1時間毎に50円加算



まちかど駐輪場に関する報道
(H20.12.22京都新聞)

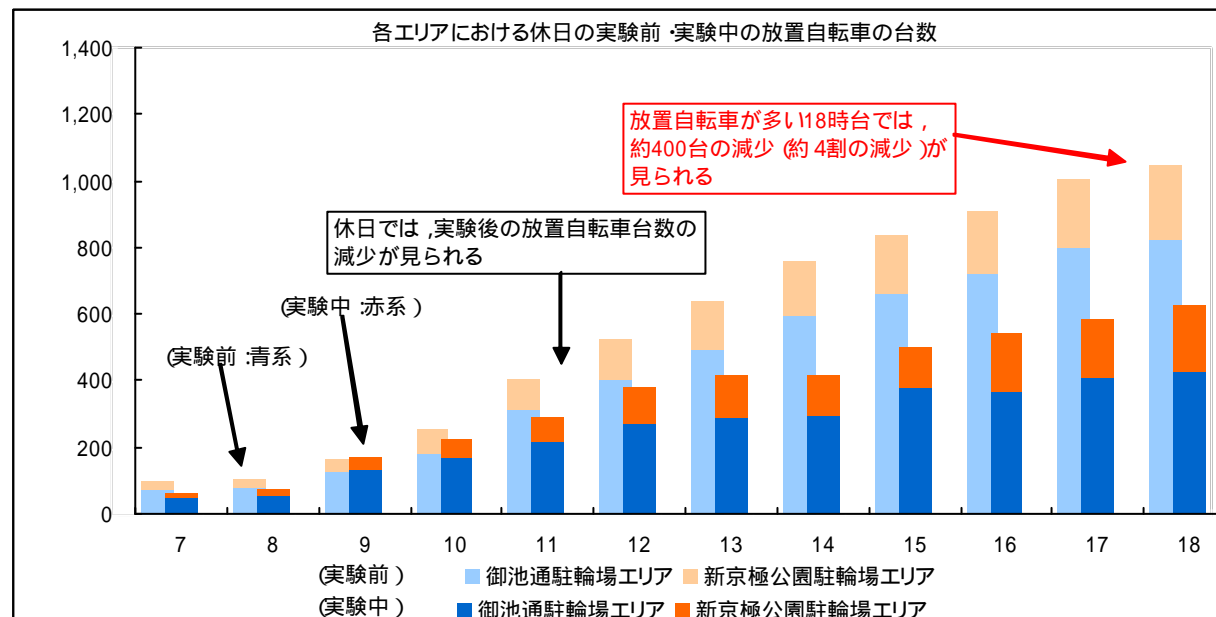
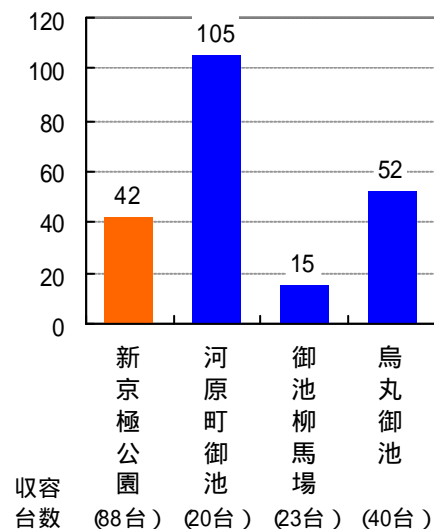
2 平成20年度の施策

実施状況

まちかど駐輪場の駐輪台数及び放置自転車台数

まちかど駐輪場では、平均214台/日の利用があり、駐輪場の設定期間中、放置自転車台数が減少している。

平均駐輪台数(台/日) (~3/8時点)

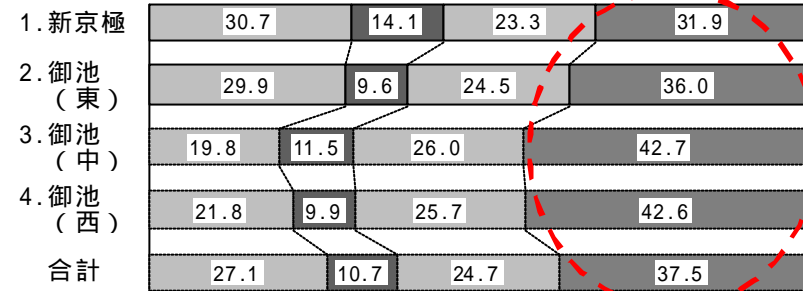


2 平成20年度の施策

まちかど駐輪場設置前の駐輪実態 (まちかど駐輪場アンケート調査より)

まちかど駐輪場が設置される前は、約3~4割が「ほぼ毎回、路上に駐めていた」と回答している。

- ほぼ毎回、駐輪場に駐めていた
- 路上よりも駐輪場に駐めることが多かった
- 駐輪場よりも路上に駐めることが多かった
- ほぼ毎回、路上に駐めていた

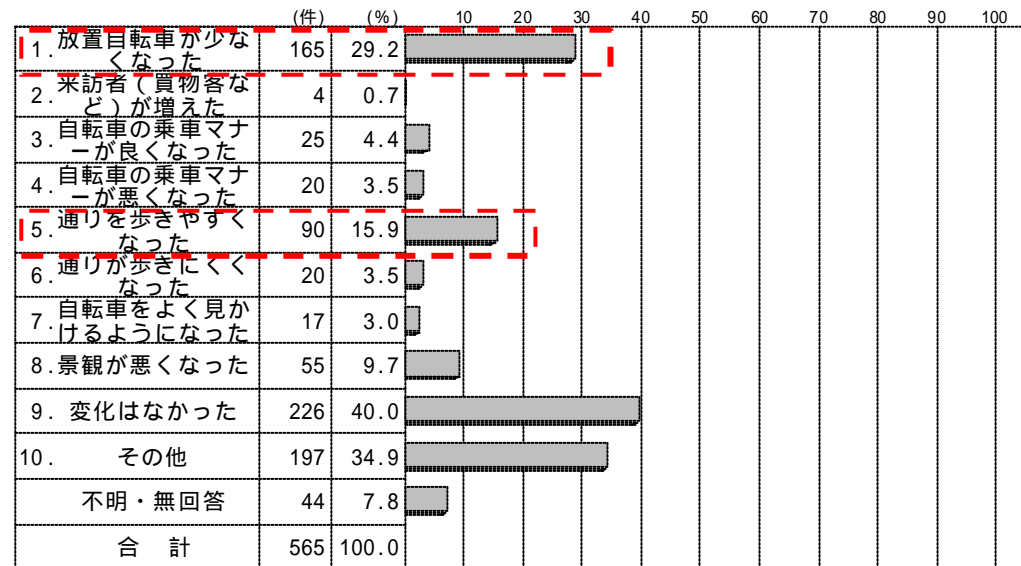


まちかど駐輪場の設置効果 (地元関係者に対するアンケート調査より)

まちかど駐輪場の周辺地域から、「放置自転車減少」が約3割、「歩きやすくなった」が約2割という評価を受けている。

今後の展開

実験結果を精査し、周辺道路や地元住民の皆様、商店街の皆様等の意見を踏まえ、今後の駐輪場のあり方について検討していく



2 平成20年度の施策

(2) マナー向上に向けた取組（駐輪場・走行規制マップ）

施策の内容

- 自転車の利用者に対して、駐輪場の場所と概要、自転車の走行規制の概要、自転車利用に関するルール・マナーを掲載したチラシを約20,000部作成した。
- 近隣商店（商店街やコンビニエンスストア等）や近隣施設（京都文化博物館、ウイングス京都等）への配布、駐輪場アンケート調査時の配布、夜間啓発活動による配布を行った。

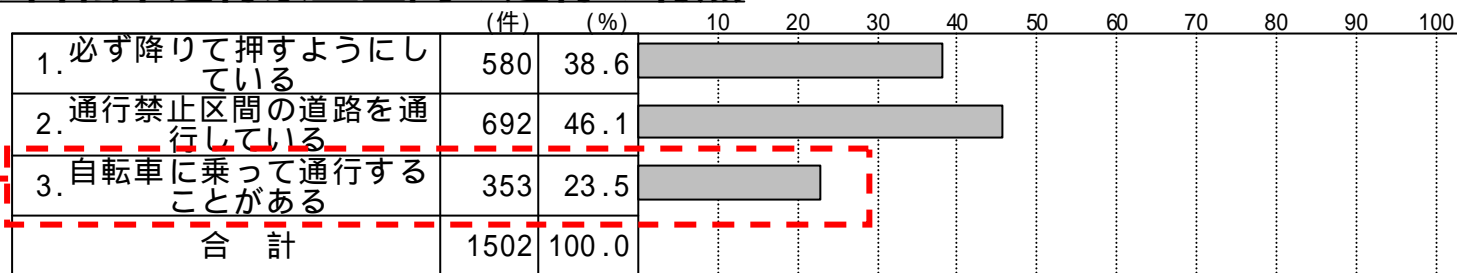
実施状況

一般駐輪場・路上駐輪車両アンケート調査では、「(通行禁止区間の道路を)自転車に乗って通行することがある」との回答が約2割で、そのうち約4割は「(規制を)知らなかった」と回答している。

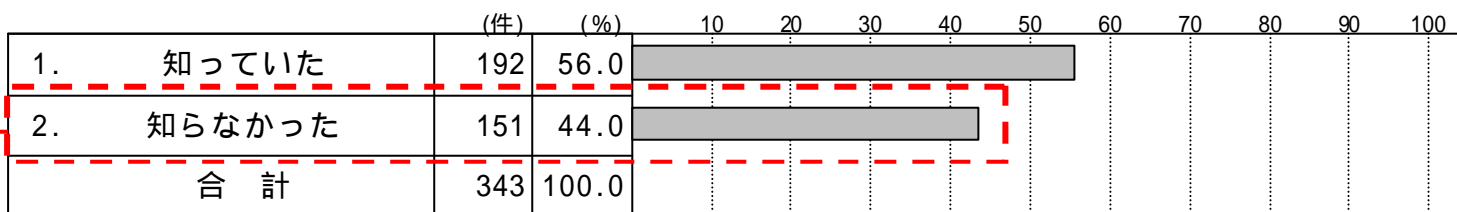
走行規制マップで通行禁止区間を確認してもらった後に尋ねた「今後の意向」では、9割弱が「通行禁止区間・時間帯では自転車を押そうと思う」、通行禁止区間以外の道路を通行しようと思う」という回答している。

2 平成20年度の施策

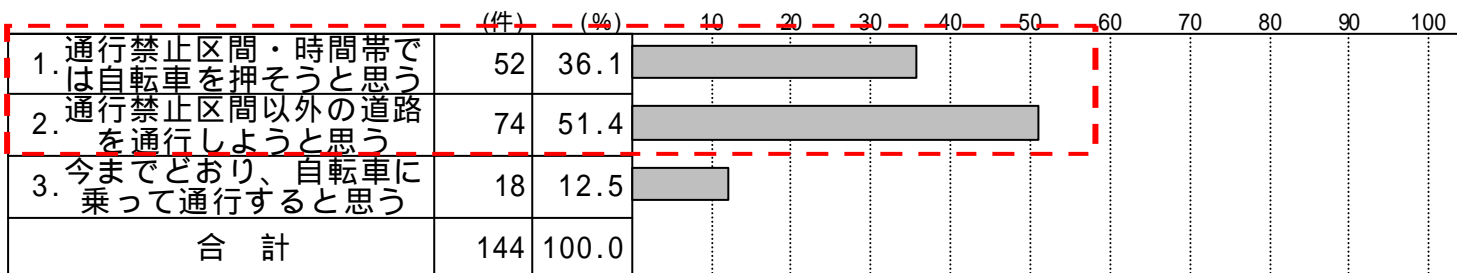
普段の自転車通行禁止区間の通行の有無



通行禁止区間の認知度 (前問で「自転車に乗って通行することがある」と回答した方のみ)



今後の意向 (前問で「知らなかった」と回答した方のみ)



2 平成20年度の施策

2.3 歩いて楽しむ賑わいの創出に関する施策

(1) 情報誌「^{まち}京な^{ぶっく}か歩く」の発行

施策の内容

- 歩いて楽しむ賑わいの創出に関する施策の一環として、公共交通の利用促進と歴史的都心地区の賑わい創出を目的とした施策を実施した。
- 「京な^{まち}か」の魅力を再発見する「通り」の紹介など歩いて楽しむ情報や、利用者の視点に立った地下鉄・市バス等の公共交通便利情報を掲載した情報誌「京な^{まち}か^{ぶっく}」を作成、配布した。

実施期間・箇所

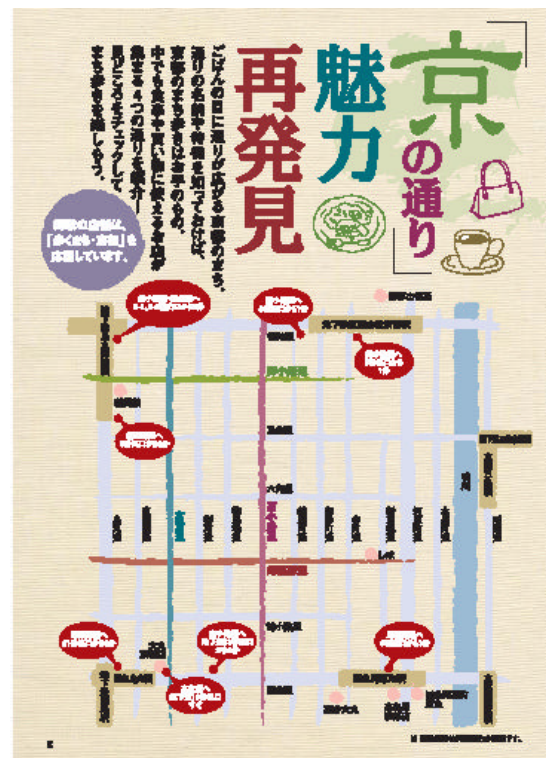
平成21年2月25日から配布開始。

市営地下鉄全31駅を含む鉄道駅、市役所、区役所、市の各施設、紙面紹介店舗等に設置した。またシンポジウムやイベント等においても配布した。

2 平成20年度の施策



まち ぶっく
情報誌 京なか歩く」の表紙



市民の皆様や観光客の皆様には、歩いてこそ体感できる「通り」のお店情報をテーマ別に紹介し、「なか」の歩いて楽しい魅力を発信



多くの皆様が「なか」を携帯し、地下鉄、市バスなどの公共交通をより快適に利用していただくため、「なか」アクセスの新たなヒントとなる公共交通の便利情報を掲載

2 平成20年度の施策

実施状況

発行日(2月25日)以降問い合わせが殺到するとともに、市役所案内所、区役所・支所、地下鉄駅等に当初配架した冊子がなくなり、現在も追加配架を繰り返し返している。

発行した5万部を、3月6日時点で既に配り終え、現在、3万部を増刷し対応しているところである。

問い合わせのあった市民の皆様からは、「楽しそう
で、手に取ってみたいくなる。」、**「内容が面白い。」**、**「公共交通情報が便利で分かりやすい。」**と好評を得ている。

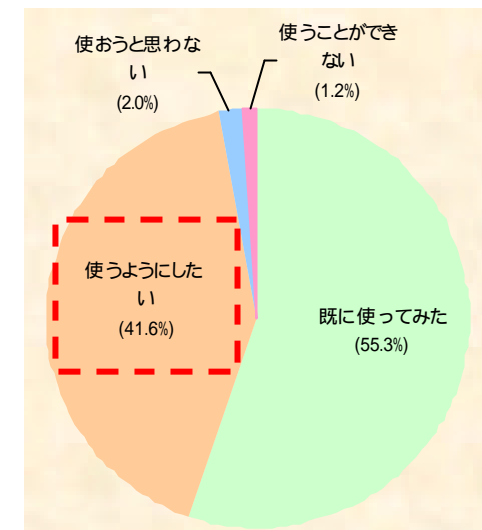


「京(まち)なか歩く(ぶっく)」に関する報道
(H21.2.25京都新聞)

2 平成20年度の施策

「^{まち}京なか^{ぶっく}」をみた後の公共交通利用意向

「^{まち}京なか^{ぶっく}」をみて、約4割の方が「公共交通を使うようにしたい」と回答した。



今後の展開

「^{まち}京なか^{ぶっく}」の他、歩いて楽しい賑わいの創出に向け、まちの魅力をいかに発信していくか、地元商店街の皆様と共に検討していく

3 まちなかの交通に関する実態調査

3.1 四条通における交通実態調査

(1) 交通実態調査の内容

調査目的

四条通における歩道拡幅などの道路空間の再配分施策に対する検討を行うため、四条通の交通および路上荷さばきに関する実態調査を実施

調査内容

四条通の実態調査として、以下の「交差点交通処理調査」、旅行速度調査」、路上荷さばき定点観測調査」、GPSによる車両観測調査」を実施した。

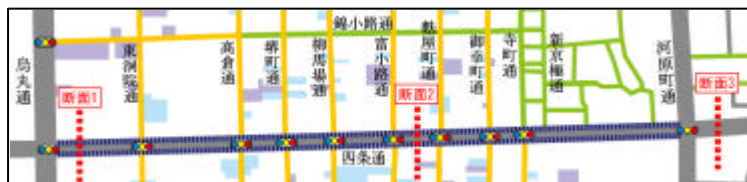
	交差点交通処理調査	旅行速度調査		路上荷さばき定点観測調査	GPSによる車両観測調査
調査日	平成20年11月16日(日) 平成20年11月18日(火)	平成20年11月16日(日) 平成20年11月18日(火)	調査日	平成20年11月18日(火)	平成20年11月 5 日(水) ~ 平成21年 1 月20日(火)
調査時間	7:00 ~ 21:00	7:00 ~ 19:00	調査時間	5:00 ~ 22:00	-
調査箇所	四条通 (烏丸通 ~ 四条大橋西詰)		調査箇所	四条通 (烏丸通 ~ 四条大橋西詰)	歴史的都心地区及び周辺部
調査項目	交差点方向別 /車種別交通量	調査車両の移動データ (時刻・位置)	調査項目	車種別駐停車数 荷さばき状況(荷さばき時間、 車種、配送体制、業者名、 搬入・搬出、配送先)	移動軌跡情報 (位置座標、時刻)

3 まちなかの交通に関する実態調査

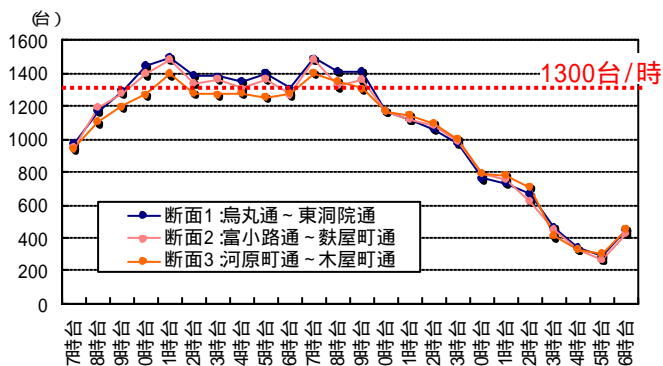
(2) 四条通交通実態結果

●四条通では,平日 休日,調査断面位置にかかわらず,朝から夕方にかけて,1,300台/時前後の交通量

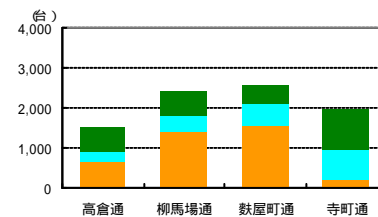
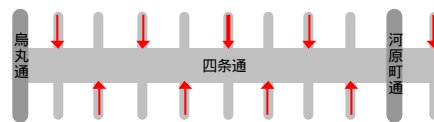
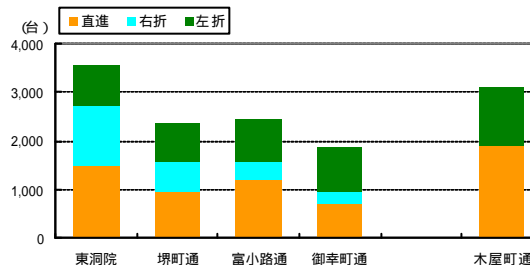
●南北道路では,交差点へ流入する総交通量は,休日より平日が多い
 ●南向きの道路では,西側(烏丸通側)に近いほど右折する割合が高く,北向きの道路では,東側(河原町通側)に近いほど,右折する割合が高い



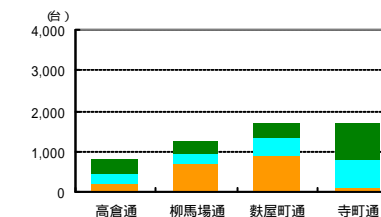
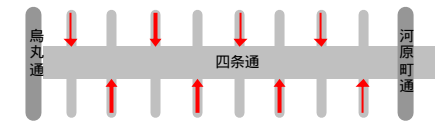
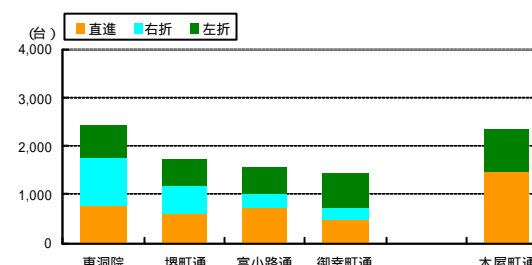
【平日の四条通の交通量】



【平日の流入交通量】



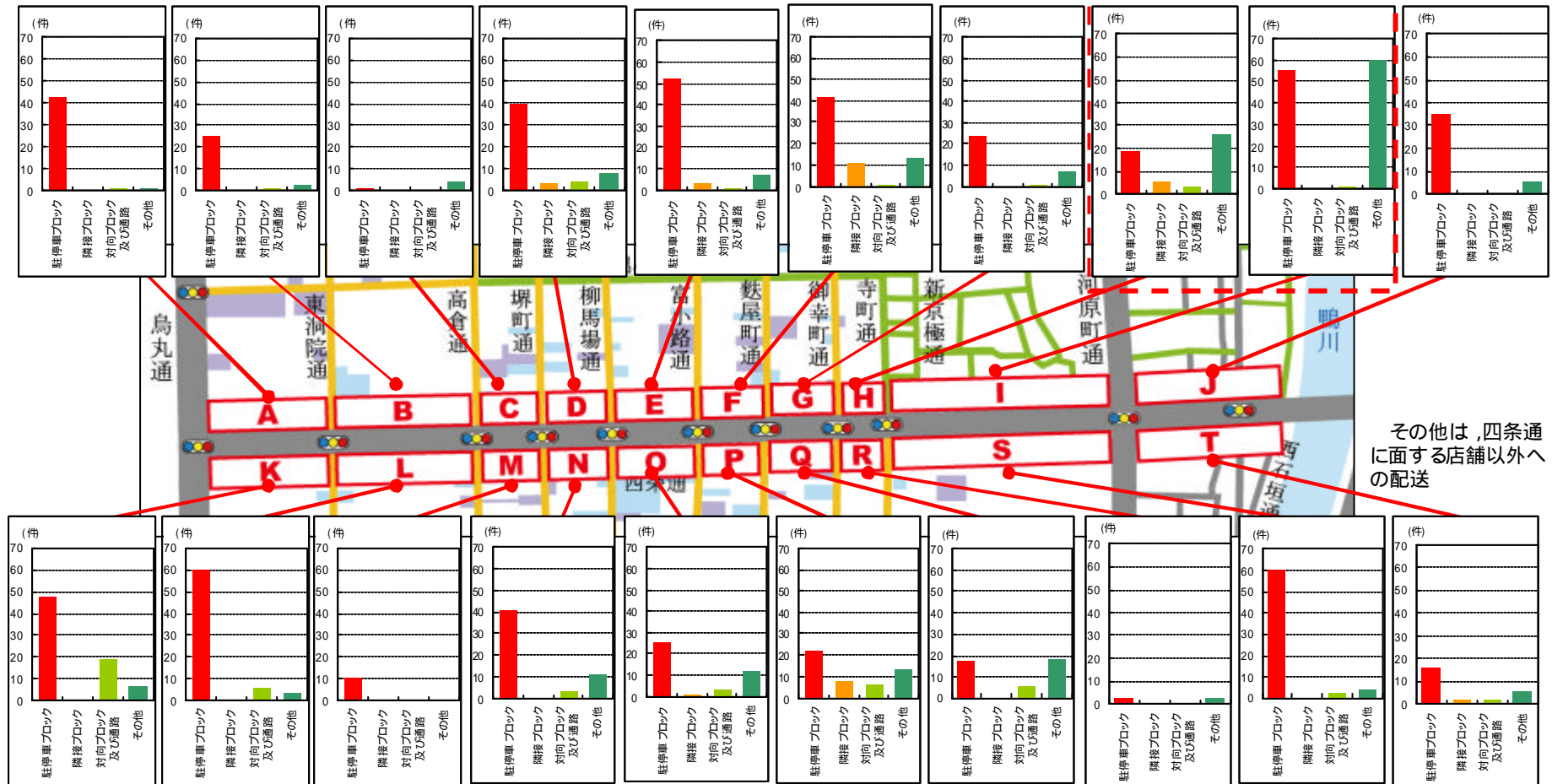
【休日の流入交通量】



3 まちなかの交通に関する実態調査

(3) 物流実態調査結果

- 駐停車ブロック内の店舗への配送が多い
- 御幸町通から河原町通間の北側では、四条通に面する店舗以外への配送が多い



3 まちなかの交通に関する実態調査

3.2 放置自転車台数及び自転車走行台数実態調査

(1) 自転車実態調査の内容

調査目的

駐輪場設置の実施前と実施中における放置自転車台数を把握することで、駐輪場設置による放置自転車減少効果を把握
駐輪場設置の実施前と実施中において、走行禁止区域を走行している自転車台数を把握することで、駐輪場周辺での違反者率を把握し、ルールを遵守して駐輪場を利用しているかを把握

調査内容

	放置自転車台数調査		自転車走行台数実態調査	
調査日		実験前	実験中	
	平日	H20.12.11(木)	H21.2.18(水)	
	休日	H20.12.20(土)	H21.2.21(土)	
調査時間	7:00 ~ 19:00 (12時間調査)		7:00 ~ 21:00 (14時間調査) 裏寺町通と新京極公園前は13時 ~ 24時が規制時間帯であるため、12時 ~ 21時の9時間調査	
調査箇所	駐輪場の設置を行う周辺地域		新京極公園駐輪場周辺の走行禁止区域	
調査項目	放置自転車台数		自転車乗車台数(自転車に乗っている) 自転車降車台数(自転車を押している)	

3 まちなかの交通に関する実態調査

(放置自転車台数調査の調査箇所)



(自転車走行台数調査の調査箇所)



- A : 新宮極公園駐輪場周辺での調査範囲
- B : 御池通（南側歩道上3箇所）駐輪場周辺での調査範囲

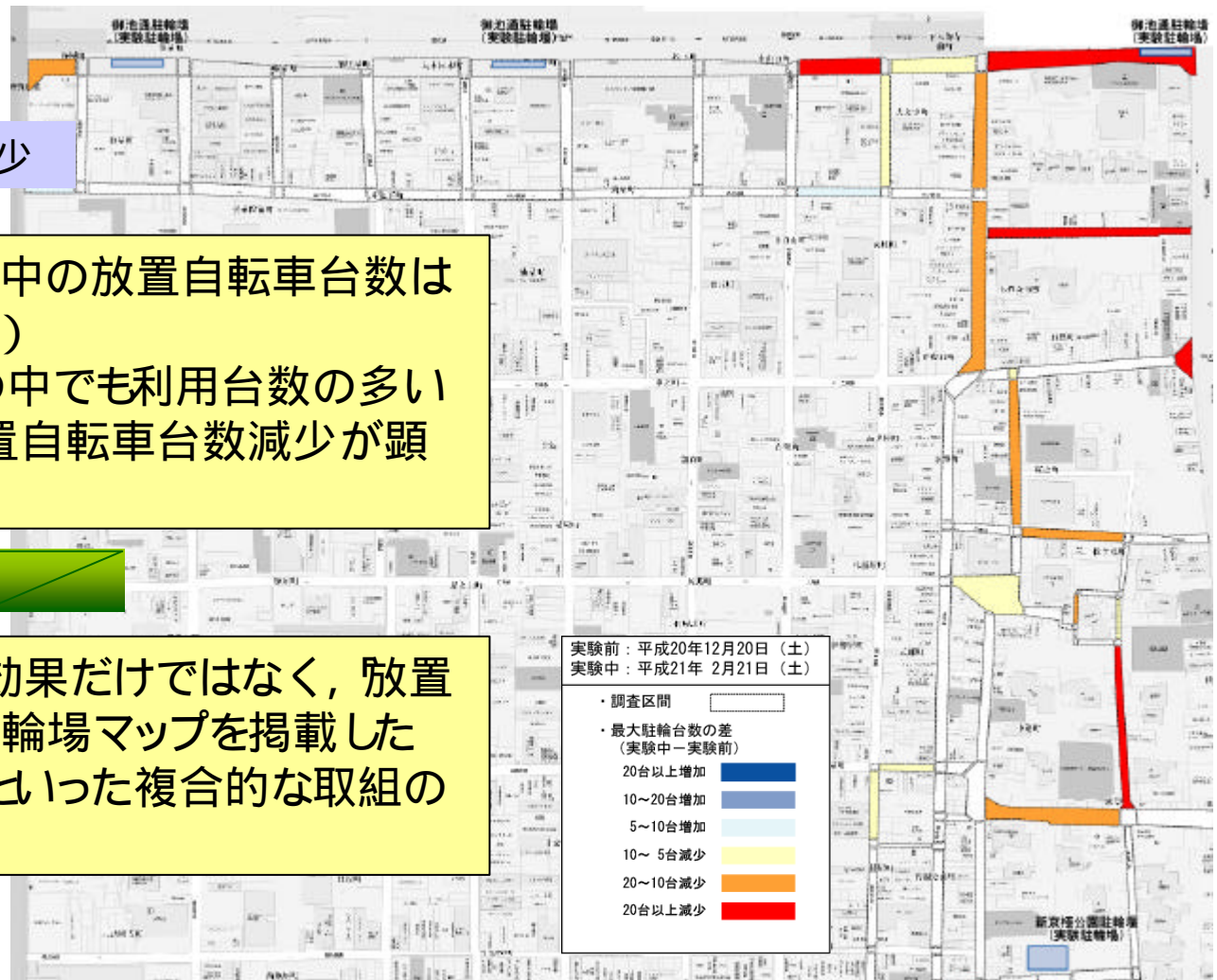
3 まちなかの交通に関する実態調査

(2) 放置自転車の減少

休日の放置自転車の減少

- 実験前と比較して、実験中の放置自転車台数は減少傾向（休日のケース）
- 特に、まちかど駐輪場の中でも利用台数の多い河原町御池周辺での放置自転車台数減少が顕著

- まちかど駐輪場設置の効果だけではなく、「放置自転車撤去の強化」や駐輪場マップを掲載した啓発冊子の配布活動」といった複合的な取組の効果が発現



3 まちなかの交通に関する実態調査

(3) 自転車の走行マナー

休日の走行マナー



- 当初,新京極公園に駐輪場を設置することで,走行マナーを守らない利用者が増加する懸念
- 実験中の状況では,平日はマナー向上,休日はマナー低下
- ただ,大きなマナー低下はなし



- 実験中に「ガードマンによる注意喚起」や走行ルールについて掲載した「啓発冊子の配布活動」といった複合的な取組を実施

押しチャリ率の状況

	平日	休日
実験前	10 ~ 12%	20 ~ 23%
実験中	14%	19 ~ 22%

3 まちなかの交通に関する実態調査

3.3 自転車利用者に対するアンケート調査

(1) まちかど駐輪場調査

調査目的

新京極公園,御池通(南側歩道上3箇所)駐輪場の評価(利用者満足度等)を把握するため,駐輪場利用者に対して,アンケート調査を実施

調査内容

調査対象と調査場所

調査対象 :実験駐輪場利用者

調査場所 :新京極公園,御池通(南側歩道上3箇所)の2駐輪場・4箇所

調査日時

平日調査 :2/2(月),2/4(水)~2/6(金),2/9(月)の計5日間

休日調査 :2/7(土),2/8(日),2/14(土),2/15(日)の計4日間

配布時間 :7~21時

調査方法

駐輪場利用者に対して,料金清算後に,調査員がヒアリングを実施した。
ヒアリングができない場合は手渡しにより配布した。

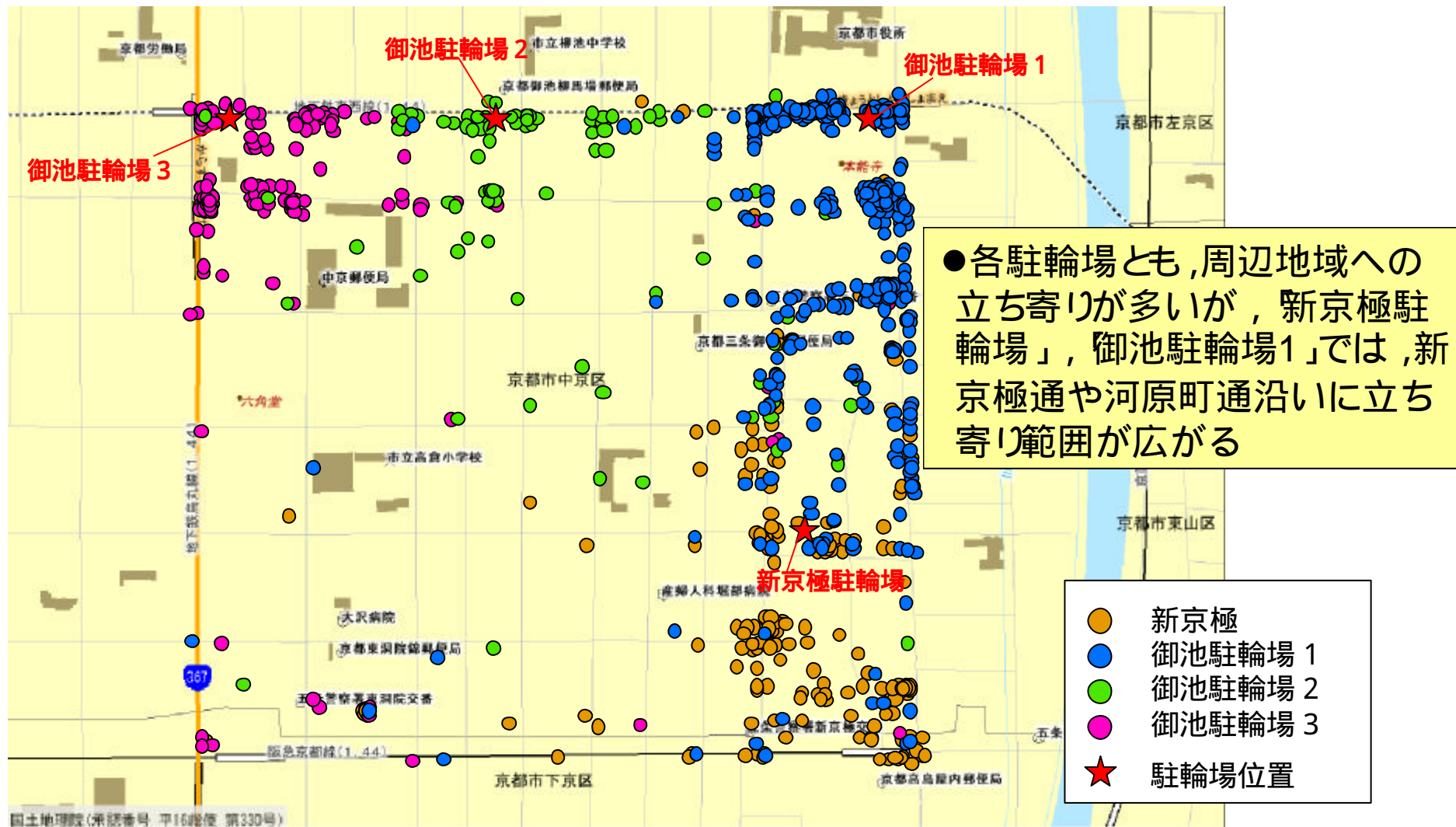
3 まちなかの交通に関する実態調査

アンケート配布枚数,回収枚数

調査場所	調査方法	配布枚数	回収枚数	回収率
新京極	ヒアリング	169	169	100%
	手渡し	47	9	19%
御池 (東)	ヒアリング	372	372	100%
	手渡し	248	59	24%
御池 (中)	ヒアリング	87	87	100%
	手渡し	35	11	31%
御池 (西)	ヒアリング	177	177	100%
	手渡し	118	31	26%
計	ヒアリング	805	805	100%
	手渡し	448	110	25%
		1,253	915	73%

3 まちなかの交通に関する実態調査

駐輪後の立ち寄り先 (まちかど駐輪場アンケート調査より)

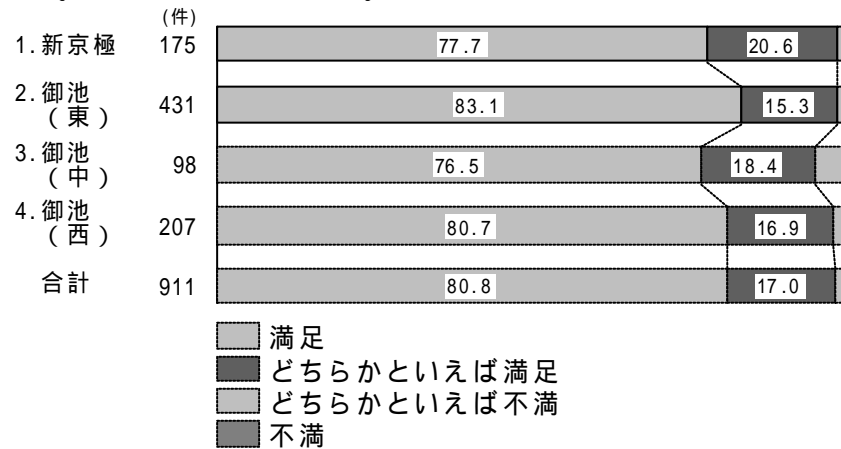


3 まちなかの交通に関する実態調査

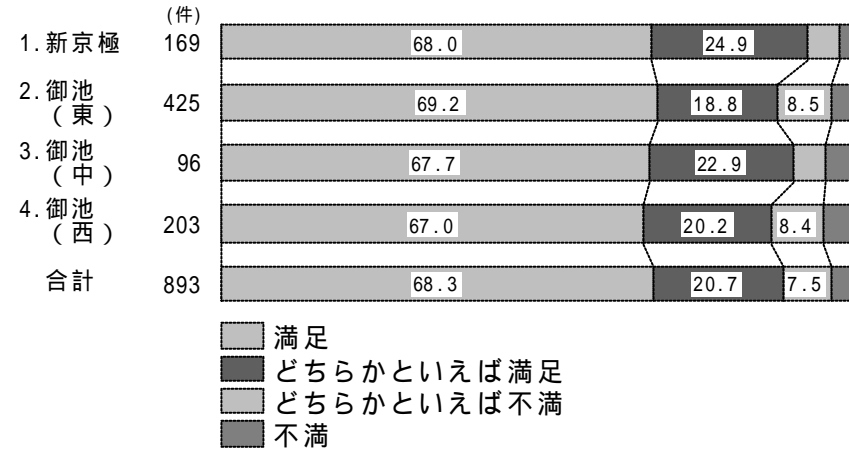
まちかど駐輪場を利用した感想 (まちかど駐輪場アンケート調査より)

●設置位置 , 料金設定とも , 90%前後の利用者が“満足”又は“どちらかといえば満足”と回答しており , 非常に満足感が高い

(駐輪場の設置位置)

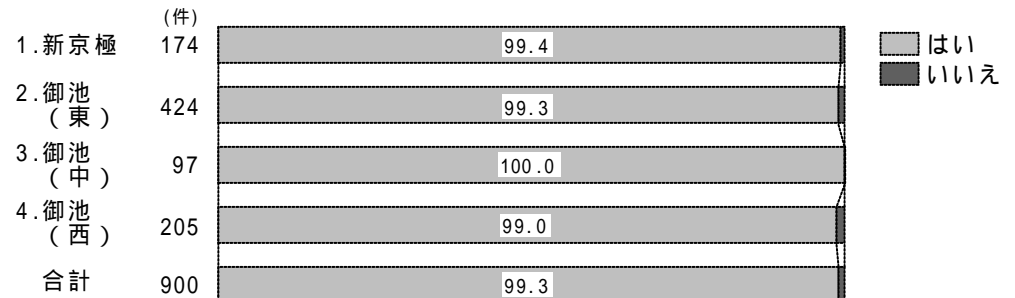


(料金設定)



今後のまちかど駐輪場の利用意向 (まちかど駐輪場アンケート調査より)

●今後のまちかど駐輪場の利用意向では , 各駐輪場ともほぼ全ての利用者が「利用したい」と回答



3 まちなかの交通に関する実態調査

(2) 一般駐輪場・路上駐輪車両調査

調査目的

まちなかの自転車利用者に対して、駐輪場や走行禁止区域に関する情報提供を行い、今後の利用意向や転換意向を把握
自転車利用者が考える駐輪場の利用料金や設置場所に関するニーズを調査し、利用者が必要としている駐輪場サービスレベルへの意向を把握

調査内容

調査対象と調査場所

調査対象：一般駐輪場利用者，路上駐輪者

調査場所：まちなかの一般駐輪場（富小路六角駐輪場，ろっくんプラザ，大丸京都店駐輪場（2箇所）），まちなかの路上駐輪箇所

調査日時

一般駐輪場利用者

平日調査：2/4（水）～2/5（木）の計2日間

休日調査：2/7（土）～2/8（日）の計2日間

配布時間：7～21時

（大丸京都店駐輪場は10～20時）

路上駐輪者

平日調査：2/5（木）

休日調査：2/8（日）

配布時間：2/5（木）は10:00，16:00の2回

2/8（日）は11:00，14:00，17:00の3回

3 まちなかの交通に関する実態調査

調査方法

一般駐輪場利用者

料金清算後に、調査員から手渡しによる配布

路上駐輪者

路上駐輪車のカゴにアンケート票を投入

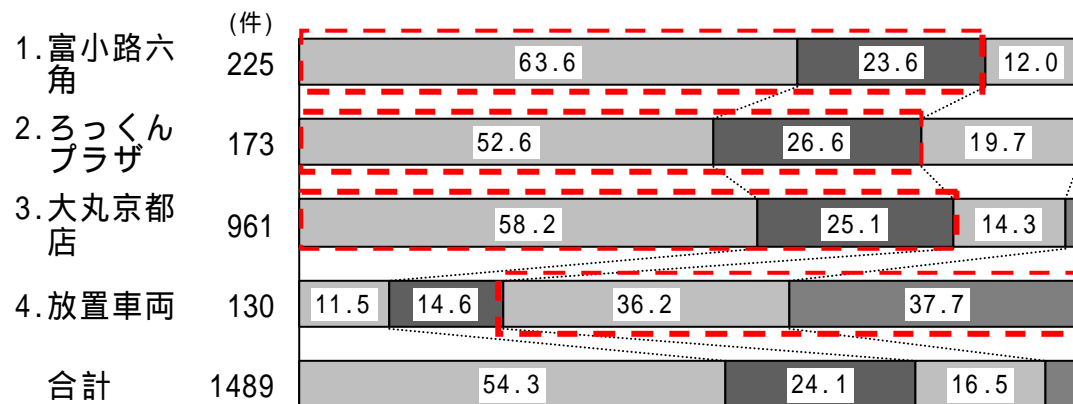
アンケート配布枚数,回収枚数

	調査場所	調査方法	配布枚数	回収枚数	回収率
一般駐輪場利用者	ろっくんプラザ	手渡し	771	228	30%
	富小路六角		676	177	26%
	大丸		3,088	997	32%
	計		4,535	1,402	31%
路上駐輪者		カゴに投げ込み	3,534	138	4%

3 まちなかの交通に関する実態調査

普段の駐輪場所（一般駐輪場 路上駐輪車両アンケート調査より）

- 「富小路六角」, 「ろっくんプラザ」, 「大丸京都店」では“ほぼ毎回, 駐輪場に駐めていた”, “路上よりも駐輪場に駐めることが多かった”が約 8割を占める
- 「放置車両」では“駐輪場よりも路上に止めることが多かった”が約 4割, “ほぼ毎回, 路上に駐めていた”を含めると7割以上で, 常習的に路上駐輪をしている状況



- ほぼ毎回、駐輪場に駐めていた
- 路上よりも駐輪場に駐めることが多かった
- 駐輪場よりも路上に駐めることが多かった
- ほぼ毎回、路上に駐めていた

3 まちなかの交通に関する実態調査

(3) 地元関係者に対するアンケート調査

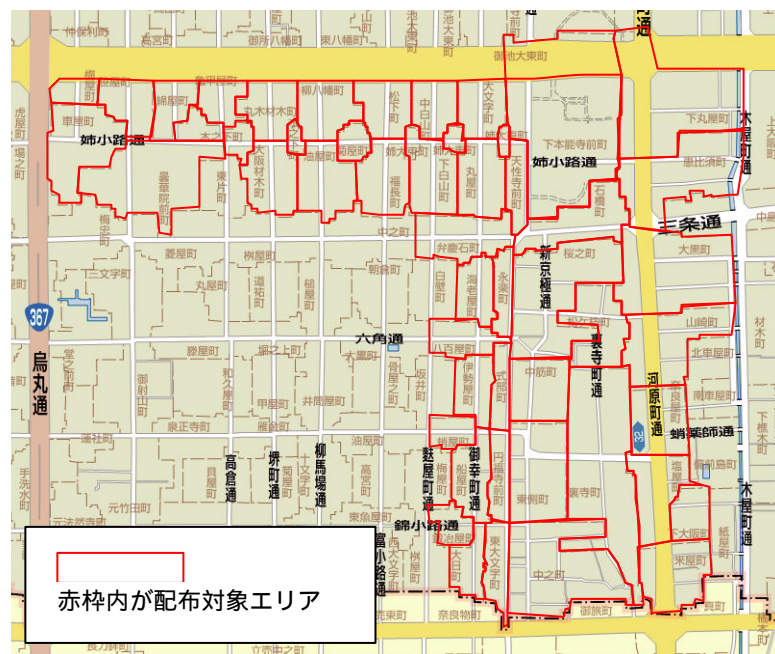
調査目的

放置自転車によるマイナスの影響や新京極公園, 御池通 (南側歩道上 3箇所) 駐輪場の設置による効果について, 地元商店や地元住民の方にアンケート調査を行い, 放置自転車や走行禁止区域走行自転車に関する影響把握を行う

調査内容

調査対象

実験駐輪場周辺の住民や商店など
(御池通, 姉小路通, 御幸町通, 寺町通,
新京極通, 河原町通沿い)



3 まちなかの交通に関する実態調査

調査内容

配布方法・配布日

配布方法

日本郵便のタウンメールを使い、配布対象地域の方に全戸配布

配布日

平成21年2月19日～2月21日の3日間

回答締切日

平成21年3月2日（1～2週間の回答期間）

アンケート配布枚数、回収枚数

配布枚数

2,986枚

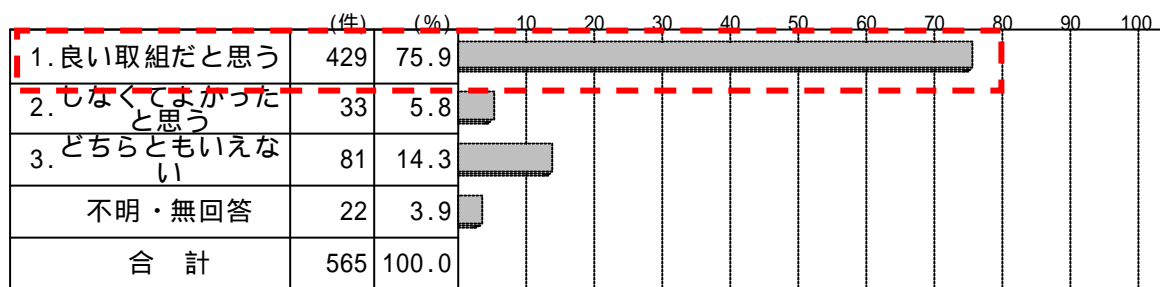
回収枚数・回収率

565枚（回収率：19%）

3 まちなかの交通に関する実態調査

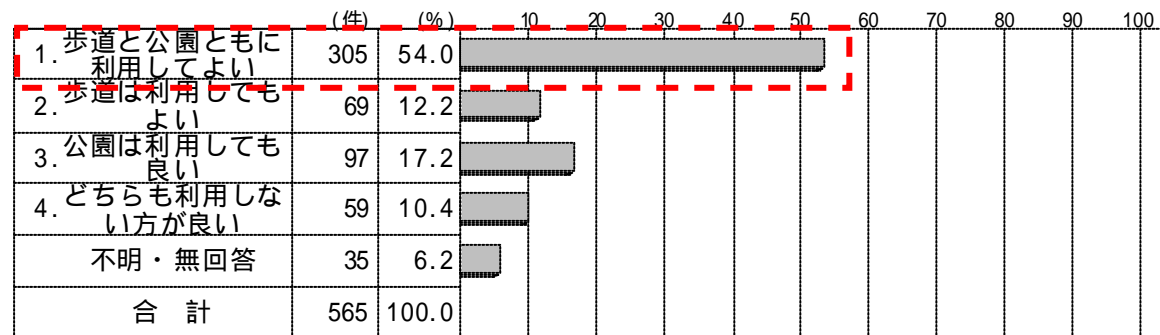
取組の評価

●地元の方の約75%が「良い取組」と回答



今後の駐輪場設置の利用場所について

●今後の駐輪場設置の場所として、「歩道や公園を利用すること」について、「両方とも利用しても良い」という回答が半数以上



3 まちなかの交通に関する実態調査

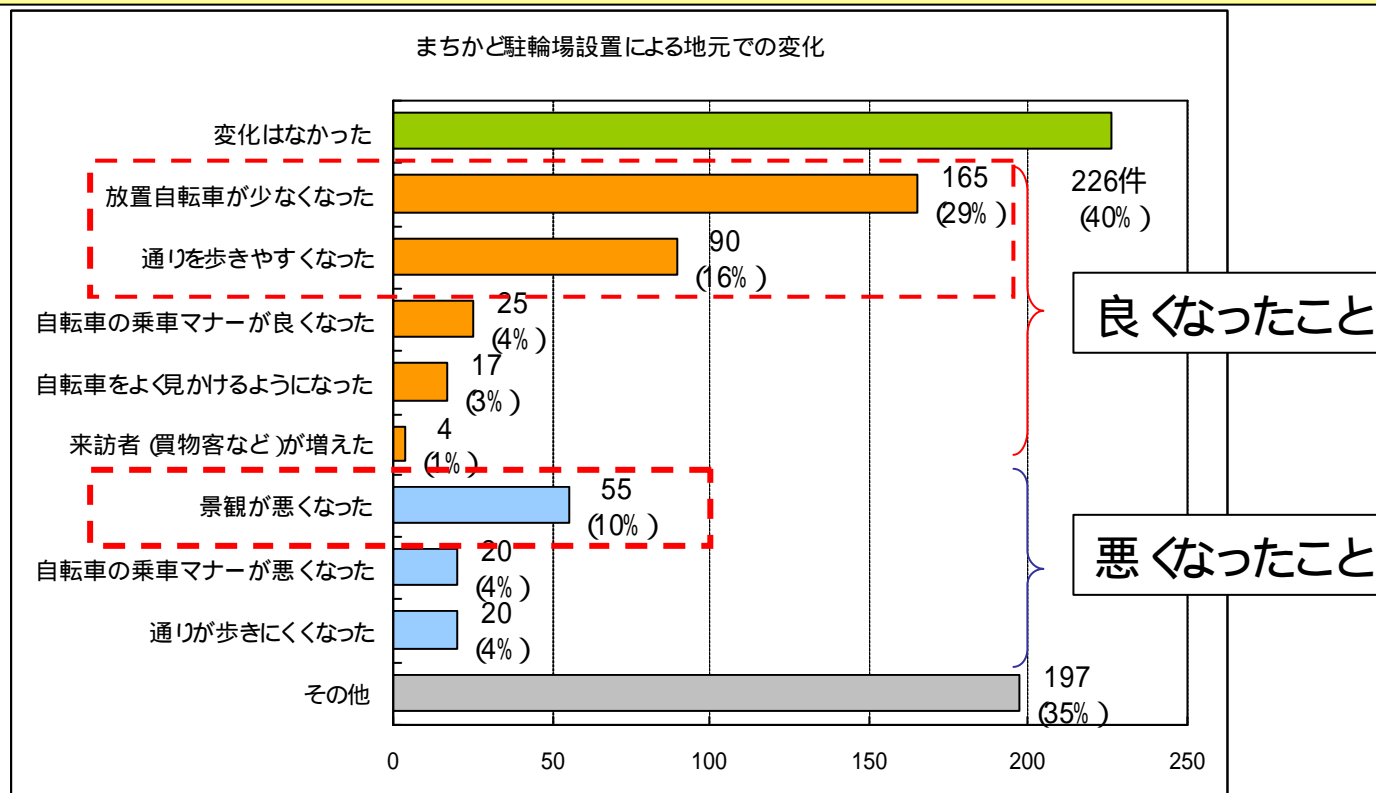
まちかど駐輪場設置の変化 (効果)

良くなったこと

「放置自転車の減少」約 3割。 「歩きやすくなった」約 2割。

悪くなったこと

「景観が悪くなった」約 1割。



3 まちなかの交通に関する実態調査

3.4 「^{まち}京なか^{ぶっく}歩く」などのまちの賑わいに関するアンケート調査

(1) 調査の内容

調査目的

○まちなかの魅力と公共交通の利便性をPRする情報誌「^{まち}京なか^{ぶっく}歩く」は、まちなかの賑わい創出と公共交通の利用促進を目的に発行



○情報誌の反応は、捌ける部数によって一定確認することは可能ではあるが、歩いて楽しい「まちなか戦略」を推進し、今後の情報提供関連施策への展開に繋げていくためには、読者の公共交通情報に対する興味や反応、公共交通への意識や利用の変化等といった細かな情報収集が必要



○「^{まち}京なか^{ぶっく}歩く」の末尾のページに読者アンケート欄を設け、「^{まち}京なか^{ぶっく}歩く」のお気に入りページや読者層を把握及び読後の公共交通に対する利用意向の変化等の把握に関するアンケート調査を実施

3 まちなかの交通に関する実態調査

調査内容

調査対象

調査対象：^{まち}京なか歩く^{ぶっく}の読者

調査日時

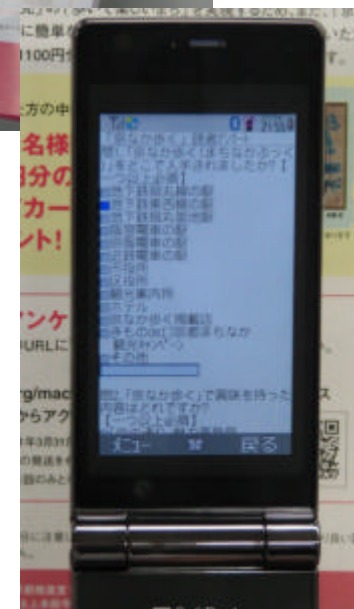
調査日時 2/25 ~ 3/31

調査方法

携帯サイトを活用したWebアンケート方式

アンケート回収数

409件 (H21.3.11現在)

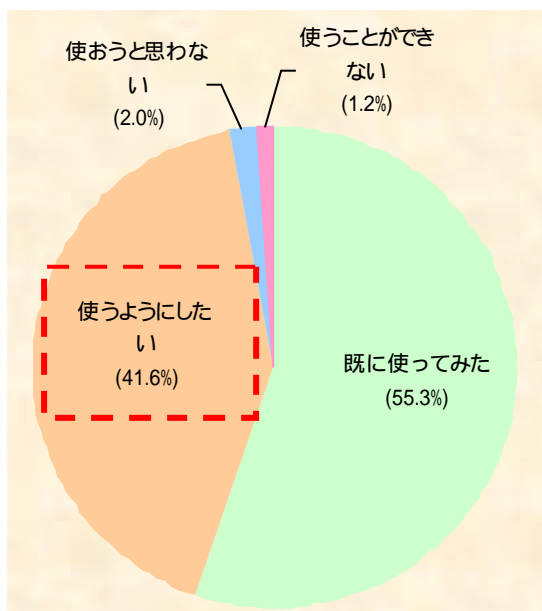


3 まちなかの交通に関する実態調査

調査結果

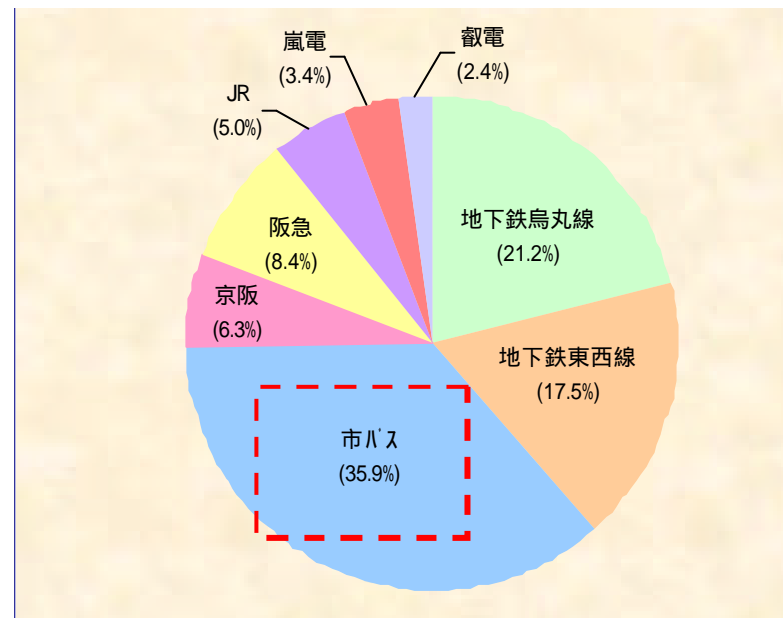
まち ぶっく
京なか歩くをみた後の公共交通利用意向

まち ぶっく
京なか歩くをみて、約4割の方が「公共交通を使うようにしたい」と回答した。



まち ぶっく
(京なか歩くを見て公共交通を使うようにしたい)と答えた方の)使いたい交通手段

市バス」が最も多く、次いで「地下鉄烏丸線」、地下鉄東西線」の順となっている。



3 まちなかの交通に関する実態調査

3.5 まちなか来訪者実態アンケート調査

(1) 調査の内容

調査目的

- 歩行者と公共交通を優先した魅力あるまちづくりの実現に向けた施策の一つとして、不要な自動車利用に対する公共交通への転換が挙げられる
- 公共交通のサービス改善に加えて、公共交通の便利情報やクルマ利用時の諸問題に関する情報を提供し、行動変容を促すことも重要



- まちなかへ自動車を使って訪問する人々 (= まちなかの駐車場利用者)を対象に、自動車来訪者の交通特性等の把握と公共交通への転換を促すための意識付けを目的としたアンケート調査を実施する。

3 まちなかの交通に関する実態調査

調査内容

調査対象

歴史的都心地区の
主要な駐車場（ ）の利用者
市営駐車場（御池地下，四条烏丸），大丸，高島屋

調査日時

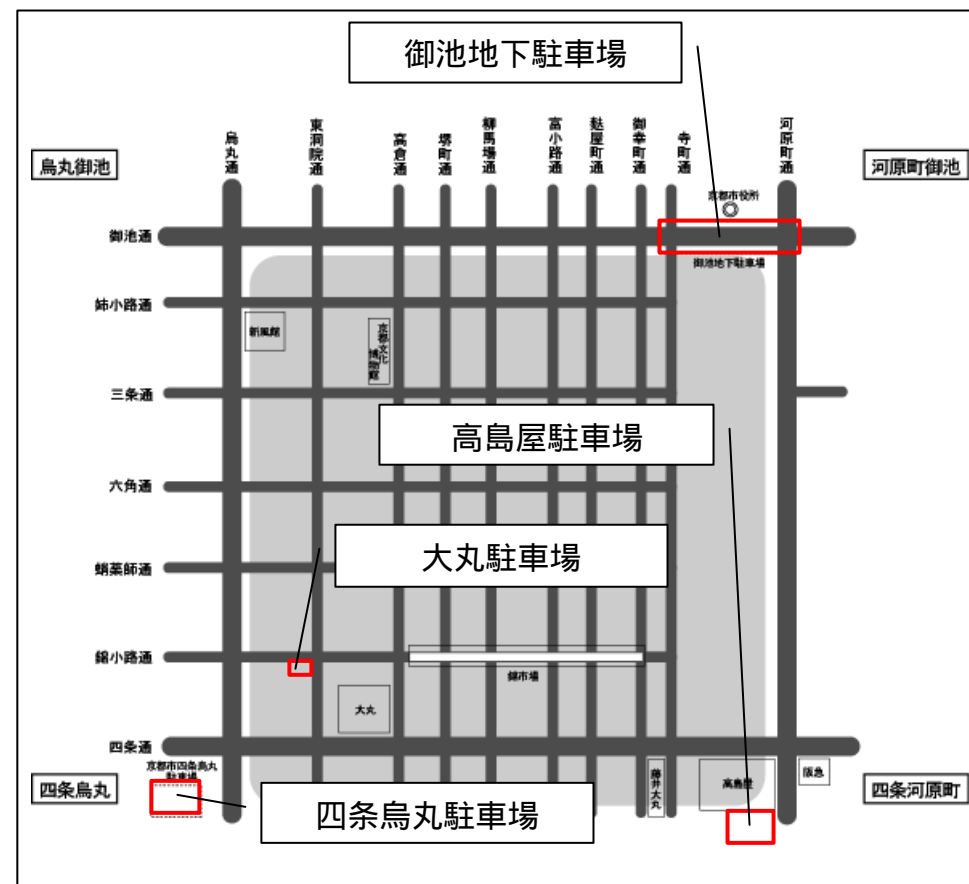
3月19日（木），20日（祝）

調査方法

調査票の手渡し配布・郵送回収

アンケート配布件数

4,333枚
（平日2,018枚，休日2,315枚）



アンケート配布駐車場位置図